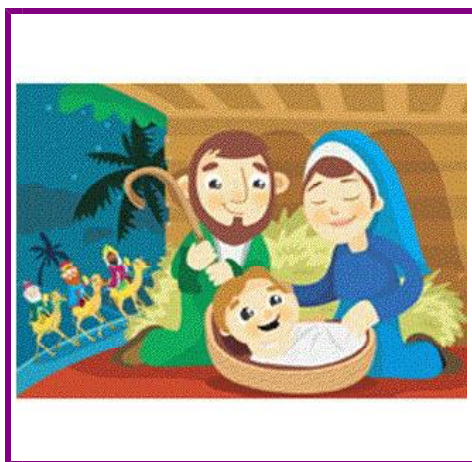


めぐみイエス・キリスト教会

2025年12月21日(日)第三主日クリスマス礼拝

午前10時より

週報「通算第788号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌80「天なる神には」 p. 110

【交読文】 No.1 詩篇第1篇 p. 879

【賛美Ⅱ】 新聖歌77「きよしこの夜」 p. 105

【使徒信条・主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「天より来られし」

【聖書朗読】 マタイの福音書1章18節～25節 (p. 1下段左側)

【礼拝説教】 《その名をイエスとつけなさい》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(マタイ1章18節～25節)

1:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒にならないうちに、聖霊によって身ごもっていることが分かった。

1:19 夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしたくなかったので、ひそかに離縁しようと思った。

1:20 彼がこのことを思い巡らしていたところ、見よ、主の使いが夢に現われて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。」

1:21 マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」

1:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成

就するためであった。

1:23 「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちと共におられる」という意味である。

1:24 ヨセフは眠りから覚めると主の使いが命じたとおりにし、自分の妻を迎え入れたが、

1:25 子を産むまでは彼女を知ることはなかった。そして、その子の名をイエスとつけた。

●ポイント1. 妻マリアの場合

※ルカの福音書1章26節～33節「御使いガブリエル」 （新約p.107）

1:26 さて、その六か月目に、御使いガブリエルが神から遣わされて、ガリラヤのナザレという町の一人の処女のところに来た。

1:27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリアといった。

1:28 御使いは入って来ると、マリアに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられます。」

1:29 しかし、マリアはこの言葉にひどく戸惑って、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。

1:30 すると、御使いは彼女に言った。「恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。」

1:31 見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。

1:32 その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。

1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」

●ポイント2. イエスの御名こそ、すべての名にまさる名

※ピリピ書2章6節～11節「イエスが来られた理由」 （新約p.396下段）

◎先週のメッセージ【パリサイ人のパン種】

《パリサイ人の家を後にした主イエスは、弟子たちに語り始めました、「パリサイ人のパン種、すなわち偽善には気をつけなさい。」と。

実は、この話は、二回目で、その時には、サドカイ人たちのパン種についても、主は注意するようと言われました。弟子たちは、パン種とは、パリサイ人やサドカイ人の教えであることが分かったのです。

さて、パリサイ人たちは先祖の言い伝えをすべて守っていると主張していますが、実は抜け道があって、多くのことから逃れていました。「おおわれているもので現わされないものではなく、隠されているもので知られずにすむものはありません。」

これは、基督教の奥義と真理を指しています。つまり、主イエスが、弟子たちに教え、あるいは見せたもので、主が黙っているように命じられたことを指します。その一つが、ピリポ・カイザリヤにおいて、シモン・ペテロが、主イエスを、「キリスト告白」したことです。

「ですから、あなたがたが暗闇で言ったことが、みな明るみで聞かれ、奥の部屋で耳にささやいたことが、屋上で言い広められるのです。」

この訳は誤訳とも言えると思われます。現代訳では、「ですから、私が内輪の弟子にだけ伝授した奥義を、今こそ公然と言い広め、伝道しなさい。」となっており、これは預言であって、十字架と復活、そして昇天と聖霊降臨を経てからのことになります。それゆえ、五旬節において、「屋上で言い広められる」ことになるわけです。

さて、パリサイ人のパン種とは、偽善です。偽善とは、相手を裁くことです。私たちは、自分のことを差し置いて、すぐに人を裁いてしまいます。そこには、自分が正しいと言う自負があるからです。私たちは、間違いをおかす者ですし、失敗する者なのです。神様は、パリサイ人のような高ぶる者ではなく、常にへりくだる者を用いて下さいます。》

◎お知らせ

※本日、クリスマス礼拝後の愛餐会はありません。家族でクリスマスをお祝い下さい。来週は、松本望美宣教師のメッセージとなります。